

平成28年度

# いばらき輝く教師塾

茨城県教育研修センター

第6日 11月26日(土)

講話：「グローバル人材の育成とおもてなしの心」  
～輝く教師を目指して～

講義資料 (pdf ファイル)



筑波大学大学院客員教授  
Global Manner Springs 代表  
江上 いずみ 氏

## 【要旨】

- ・「おもてなし」とは、相手に喜んでもらうために心を尽くすことや、対価や見返りを求めない自然発生的な対応である。これは、児童生徒によりよい授業や対応をする教師の仕事にも通じることである。
- ・相手に好感をもってもらうためには、第一印象を高める5原則（表情・態度・身だしなみ・言葉遣い・挨拶）を正しく身に付けることが大切である。
- ・ある人の一番が他の人の一番とは限らない。おもてなしの表し方は、相手の気持ちになって行動することが大切である。
- ・日常生活において、「おもてなしの心」を自然に表現できるよう、子どもたちには「言葉かけ」の大切さを伝えていきたい。

## 実践発表：「学校における危機管理」



常総市立水海道中学校  
教頭 篠崎 徹

## 【要旨】

- ・学校における危機としては、事故、加害行為、災害、教職員の事故、外部との対応などがある。
- ・危機管理の4原則は、予知する・回避する・対処する・再発防止である。しかし、全ての危機を予知することは難しいので、被害を最小限にすることが重要である。
- ・関東・東北豪雨災害では、近隣の中学校からも多くの生徒がボランティアに来てくれた。装備を整え、活動時間を工夫するなど、被災地に負担をかけない活動をしてくれたことに感謝している。



## 塾生のアンケートより

### 講話「グローバル人材の育成とおもてなしの心」についての感想

- ・人に何かをしようとするときには、相手からも何かを得ようと思ってしまう。見返りを求めない「おもてなしの心」の大切さを学ぶことができた。【学生】
- ・グローバル人材とは、他国の文化を理解し、国際的に活躍できる人というイメージを持っていたが、日本の文化を正しく理解し、外国に発信できる人でもあると感じた。【学生】
- ・おもてなしの心とは、相手にとって何が必要なことであるかを考え、感じながら対応していくことが大切だということを知った。【学生】
- ・「ある人の一番が他の人の一番ではない」という言葉が心に残った。相手に対する気付きが大切であり、生徒一人一人のニーズに気付くことができる教員になりたいと思った。【若手教員】

### 実践発表「学校における危機管理」についての感想

- ・学校で災害が起きた場合、教師は生徒の安全を守るため積極的に情報を収集し、状況を判断するなどの迅速な対応が求められることが分かった。【学生】
- ・常総市の豪雨災害では、先生方が避難所を回って安否確認をしたり、学用品の準備をしたりしており、生徒一人一人を大切にされた対応が心に残った。【学生】
- ・災害時に対応するためには、普段から危機意識をもっていることが大切であり、教師だけでなく、子どもたちの意識を高めておくことも重要であると思った。【若手教員】
- ・災害の様子や災害から復旧にかかる多大な時間と労力を目の当たりにして、驚きと恐怖を感じた。災害時における教師としての行動を考えることができた。【若手教員】